

タイトル…汐製菓会社の新作 40

ビスケット」

シーン…奇想天外な会議（約15分）

（汐製菓会社の社長室。大きなホワイトボードに、殴り書きされたアイデアが並んでいる。

汐は机の前で瞑想するように天井を見上げている。）

汐「面白きことも無き世を面白く！さて、今回はどんな奇跡を起こそうかねえ…ビスケットの第1弾、新しい味だ！」

塩田「（メモを取りながら）社長、今回も奇抜なアイデアを期待してますけど、あまりにも飛びすぎると消費者が…」

汐「塩田くん、これまでの汐製菓の伝説を忘れたのか？『ワサビ風味キャンディー』や『抹茶

茶たくあんゼリー』！あれで会社は一時期、世界の中心に躍り出たんだぞ！」

塩田「一時期、ですけどね…。ワサビキャンデーは確かに話題にはなりましたが、返品の山が…。その後のマーケティング部は地獄を見たんですよ？」

汐「ははは！それはチャレンジ精神の犠牲だよ。今回はね…：ずばり、『ビスケットのレアチーズケーキ味』だ！」

塩田「（驚いて一瞬固まる）ビ、ビスケットに…レアチーズケーキですか？」

汐「そうだ！ただのビスケットじゃつまらん。ビスケットにレアチーズのクリームを詰め込んだらどうだ？ほら、甘酸っぱい酸味とサクサクの食感が絶妙なハーモニーを奏でる！」

塩田「（心配そうに）確かにおいしそうですね
ど：でも、ビスケットとレアチーズケーキを一
緒にするのは…バランスが…」

汐「バランスだって？ バランスなんて必要な
い！ 斬新であればあるほど人は食べたくなる
ものだ！」

塩田「（小声で）…食べたくなくなるというか、た
だ話題になるだけじゃ…」

汐「何か言ったか？」

塩田「い、いえ！ 大丈夫です！ 社長、続けて
ください！」

シーン…試作第一号（約10分）

（試作室。白衣を着た汐と塩田がビスケット
を手にしている。試作ビスケットは見た目は普

通だが、中にレアチーズクリームが詰まっている。(

汐「さあ、これが汐製菓の未来を切り拓く、

『ビスケット』だ！」

塩田「(不安そうに)食べてみますね…(一口食べる)うん、思ったより悪くは…ない、ですけど…(しばらくして顔をしかめる)あ、でもちよつと酸味が強すぎるかも…」

汐「それがいいんだ！ほら、甘ったるいだけのお菓子じゃダメだ。酸味がクセになる！この驚きが消費者を虜にするんだ！」

塩田「(口を押さえながら)確かに、驚きはありますね…。でも社長、子供たちにはちよつとハードルが高いかも。もう少し優しい味にした方が…」

汐「ふむ…なるほど。じゃあ次はチョコチップも混ぜてみようか？チョコとレアチーズの甘酸っぱい出会い！まさにドラマだな！」

塩田「（頭を抱えながら）え、ええ…。社長の発想力にはついていきません…」

シーン③：試食会大混乱（約20分）

（会社内の試食会場。社員たちが並び、新作『ビスケット』を手に取っている。汐は自信満々で見守る。）

社員A「お、これは新作か！レアチーズケーキ味のビスケットなんて…面白そうですね。（一口食べる）……ん？」

社員B「なんか…酸っぱいですね。ビスケットなのに酸っぱいって…え、これ大丈夫？」

社員の「え、ちょっと待って、なんか急にチョコの味がする？混ぜてる？なにこれ？」

社員D「甘いのか酸っぱいのか…わからない！！」

汐「ふふふ、そうだろう！その混乱がいいんだ！味覚の冒険だ！これは世界を驚かせるぞ！」

塩田「（小声で）社長、社員たちの顔が引きつってますよ…！」

汐「心配するな、これが流行るんだ。さあ、次は国際マーケットに打って出るぞ！世界中で『ビスケット』を広めよう！」

塩田「（困惑しながら）そんなに簡単にいきま
すかねえ…。とりあえずもう少し改良を…」

外国人のお客さんの追加

（試食会に招かれた外国人バイヤー数名が登場する。彼らは全員日本語で話しているが、独特なアクセントがある。）

外国人バイヤーA「おー！これが噂の新商品デスネ？レアチーズ味のビスケット、とてもインパクトアル！」

外国人バイヤーB「ビスケットとレアチーズ？ユニークな組み合わせデスネ。ワタシ、試してみマース！」

（彼らが一口食べると、顔に明らかな困惑が広がるが、すぐに笑顔に変わる。）

外国人バイヤーC「おお…すごい…えっと、サワー、ですかね？サプライズが…たくさん、です。」

外国人バイヤーD「すこし酸っぱい！でも…これはクセに、なるかも？」

社員たち「（小声で）え、これ大丈夫なのか？」「チヨコの味もするってどういうこと？」「どうしよう、笑顔で食べてるけど顔が引きつってる…」

塩田「（焦って）社長、外国の方々まで巻き込んで…これ、どうなるんでしょう？」

汐「見る、顔は困っているが、興味津々だろう！これこそ、予想外の味覚の冒険だ！」

外国人バイヤーA「これ、ヨーロッパでもウケるかも知れませんが！まさにインパクト、あるネ！」

塩田「（驚いて）えっ？本当に？」

外国人バイヤーB「ウム！このビスケット、どこか新しい世界見せてくれるネ。味の衝撃、話題になるヨ！」

汐「よし、国際マーケットに打って出るぞ！これは世界を揺るがす革命だ！」

塩田「（困惑しながら）…でも本当にこの味で大丈夫なんでしょうか…」

シーン④：予想外のヒット（約10分）

（数週間後。世界各国で『ビスケット』が予想外に大ヒットしているニュースが飛び込む。）

塩田「社長！信じられません！『ビスケット』が海外で大人気です！特にヨーロッパでは『新しい味覚の発見』として話題になっていきます！」

汐「ほら見る、言っただろう！斬新さが世界を変えるんだ！」

塩田「日本国内ではちょっと微妙ですけど…でも、確かに海外ではウケてますね。酸味と甘みのバランスが、逆に新鮮だって。」

汐「ふっ、日本人にはまだ早すぎたのかもしれないな。次はもっと大胆な挑戦をしよう！」

シーン⑤：新たな挑戦（約⑤分）

（オフィスにて、汐が次のアイデアを思いつくシーン。）

汐「次はラーメン風味のクッキーだ！これもまた話題を呼ぶこと間違いなし！」

塩田「（絶望しながら）もう、どうにでもなってください…！」

汐「ははは！これこそ、汐製菓の真髄だ！」

（エンドロールとともに、二人の掛け合いが続き、物語は幕を閉じる。）